

のり養殖通報第17報(最終報)

千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所
千葉県農林水産技術会議 平成30年4月26日

本情報は東京湾海象情報システムよりダウンロード
できます。B4サイズでプリントアウトしてください。

平成29年度漁期を振り返って

今漁期は富津地区を中心に食害対策に精力的に取り組み年内の生産枚数は前年を上回ることができました。しかし、年明け以降は生産枚数が伸び悩んだ上に、予定より半月早く漁期が終了したため漁期終盤に大きく挽回することができませんでした。本報では気象・海況面から漁期を振り返ります。

[養殖経過]

育苗：10月4日以降水温が23℃以下に低下し(図1)、本格的な育苗がスタート。その後は23℃台の高水温が続いたが13日以降低下し状況が好転。しかし台風21号(23日上陸)の影響で種網の冷凍庫への避難や再張り込みを余儀なくされ、育苗は11月上旬まで長期化した。

年内生産：木更津、富津地区では11月以降生産に向けて展開した網にノリ芽の短縮化が見られたが、富津地区を中心に魚の食害を防止するネットの設置に精力的に取り組み11月半ば頃から徐々に収穫が開始された。一方、三番瀬では支柱柵では伸び悩みが見られたが、浮き流し漁場に展開した網は食害対策無しで順調に生長し11月下旬以降継続的に収穫が行われた。食害対策は広範囲で十分に取り組むことが難しく県全体の年内の共販出荷枚数は1,215万枚で平成17～26年の平均値(5,640万枚)の20%にとどまったが、不作だった平成27年(500万枚)、28年(690万枚)の枚数を上回ることが出来た。

年明け：内湾では短縮化が終息し漁場全体への網の展開が進んだが富津岬以南では伸長が不安定で防魚ネットの設置を余儀なくされている場所があり、2月になっても漁場全体でのフル生産には至らなかった。3月後半になってようやく生産ペースが上向き、4月末の漁期終了を目指して全力生産を続けていたが、3月下旬以降、記録的な高気温が続き水温が16℃台まで急上昇するとともに、リンが減少し(図3)色調低下が始まった。4月上旬の時点で色調低下は軽微であったが「下物を作らない・売らない」千葉ブランドを守り最後まで色の良い乾のりを提供することを最優先し、予定を半月早めて4月前半をもって収穫を終了することとなった。

最終的には共販出荷枚数は約1.6億枚(過去10年平均比56%)、出荷金額は19.6億円(同66%)となった(図4)。

[今後に向けて]

今後は漁場でのノリ芽や環境調査結果、漁場沖の海水を用いたノリ芽培養試験など一連の調査結果について、ブロック会議や研修会等で説明するとともに県内外で収集した対策の事例を紹介し、生産者の皆さんと意見交換を行いながら次漁期に向けた準備を進めていきたいと思っております。

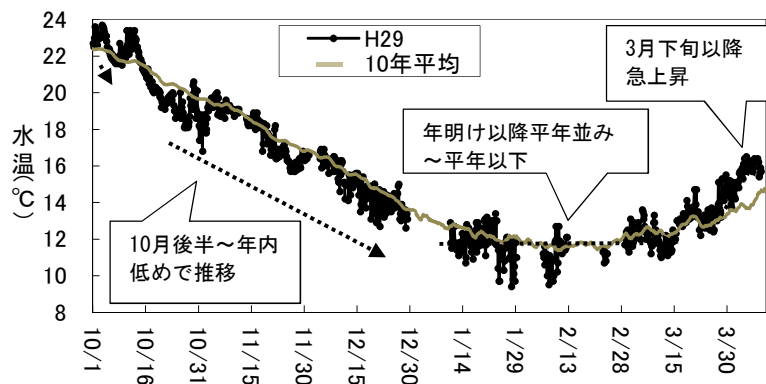


図1 平成29年度漁期の漁場水温経過と過去10年平均値の日変化

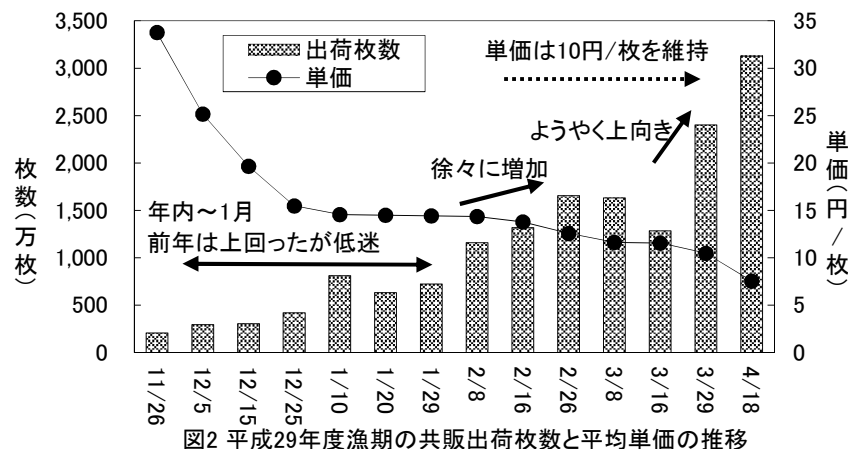


図2 平成29年度漁期の共販出荷枚数と平均単価の推移

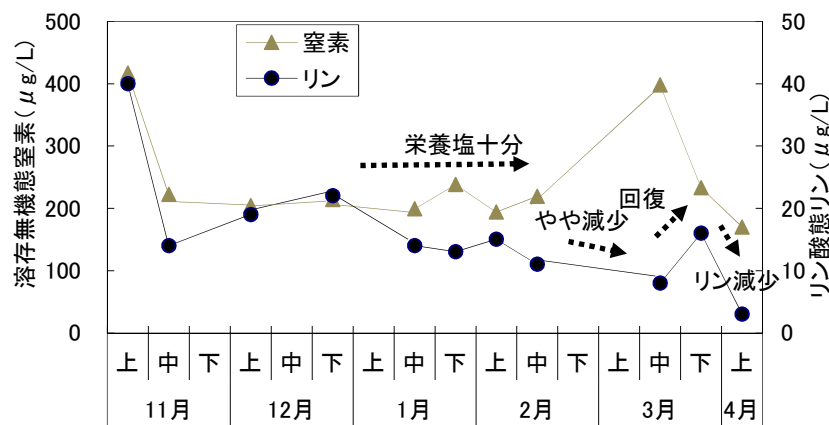


図3 平成29年度の栄養塩の経過(富津岬南側:大貫沖)

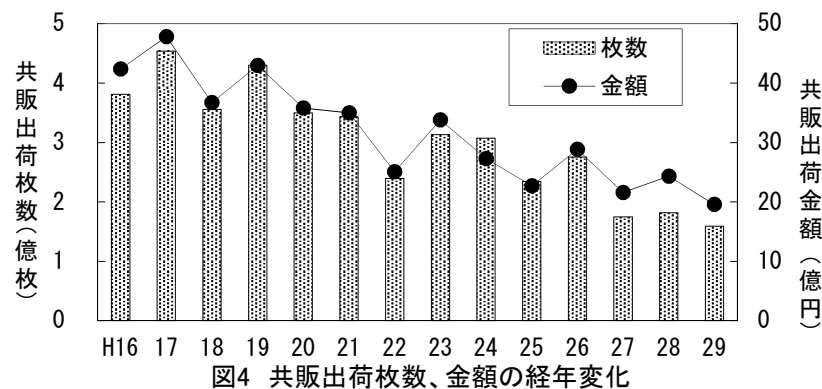


図4 共販出荷枚数、金額の経年変化

『のり養殖資材の完全撤去をお願いします』(水産課より)

平成29年度の「のり養殖」漁期も終了し養殖資材の撤去作業を進めていることと思っております。皆さんは、区画漁業権に基づいてのりを養殖していますが、漁期が終了した後は養殖資材を完全に撤去し、漁場を清掃する必要があります。今年度も順次速やかに実施できるよう万全を期すとともに、過去に使用された資材が漁場の一部に残っている場合は、併せてそれらも撤去してください。